



四十八

御代々略記

四十八

二

特別  
又  
4638  
4H





門 又  
號 4628  
48



宣統二年三月十日

一 忠成公今夜涉家督事

涉家督事

也涉先挾箱之如勿涉用書狀下以成以何是又於  
也日而後以手押黑結好藏以用以成勿是又自有  
涉何如何我之總涉家督事以何也

涉家

昭和十九年  
七月九日  
涉家



一 志友公此夕臨清津書今九時沙加増尾沙加番牧野  
備茶と御清尾と為 入心交左と御公 御波

十一月廿日

三万石

水野出羽守

奉子 同 大和守 四十一

出羽守遠願無相違大和守止差申之右今候  
於備前守毫元申列拜備前守中波有御候  
河内守長誠

一 右相海一止清降殿を控合夜此際清津徳と云

清元若根方の清徳の旦勤

他清の内と云ふる 入心人より多と指お申す候

のふり出り申

清忌廿一日の内書り候と云ふ申候

此路同との忌日候と申す

右清旦勤相候と云ふり傳通院

越前守 清津礼海ら 清田敏多と云

享和二年壬戌十一月六日 一 德殿助度沙加増と云ふ 作清と云ふ

云方徳殿助



今夜我亦家督也

作自弟増吉拙く通承如及之氏経持と家  
以り我亦之難く今之海も石も自ら之を通承賜  
之より方領を拙く承り得て向津家督後承也ん  
此致忠勤り申す是満足と海は估く之代へ海も  
相續りたり一射し之百半石加増也之百半石  
し其の若祥と云く之より我亦改事後相之不  
以る旨を承り候す候けり候情勤と致し

十一月六日

文政四己年津加恩津津領之長百石津加指

在於 津村

位合之

天保三辰年金十両之沼津津村向四  
津入用金之月々之如津村之操定  
津村領地 思之旨石加増之百石七百石  
成

同月六日

一 忠成公今之津官名如相承位之

同月十日

一 忠成公今之從津津村者牧野信成也 西九の陣安反

若馬之信之為津村者也 入り申

地明和六年万石以上之為家 仰承之申

津家督初之口割者也

同月十日

一 津家督之津村者津村 信之右之家承也人

津目見 津家督之方領改承也



多々好む

享和二年壬戌二月十六日

一 沖 家督の役成法家半一院事酒内内青

二 移 来下重年

同月廿四日

一 忠成公の為 已済也 城守に法養寺番

之の家 作山

但法師罷服故法務所候

同年三月廿日

一 今日法以候候 法務所法務所 法務所

一 之 日 沖本丸御清番同月九日

西丸御清番同月九日

同三年壬戌八月九日

一 忠成公の為 已済也 城守に法養寺番

法加役の家 作山

一 忠成公の為 已済也 城守に法養寺番

法加役の家 作山

法加役の家 作山

一 今日撤治指内法屋等 山門候

但今年法屋法屋等 山門候

文化元年甲子 享和四年二月十九日 法元

同二年乙丑

同三年丙寅三月四日



一个甲子时以之... 纒龜... 大漢... 纒失

涉金... 纒馬場... 青... 纒

涉想... 纒... 纒... 纒

纒... 纒... 纒... 纒

纒... 纒... 纒... 纒

纒... 纒... 纒... 纒

文化... 丙寅... 六月九日... 今夜... 深... 纒... 纒

同月... 今六時... 纒... 纒... 纒... 纒

涉法... 涉... 纒... 纒

同月... 忠成... 明... 纒... 纒... 纒... 纒

纒... 纒... 纒... 纒... 纒... 纒

同月... 忠成... 纒... 纒... 纒... 纒

同月... 涉... 纒... 纒... 纒... 纒

同月... 涉... 纒... 纒... 纒... 纒

同月... 公... 方... 纒... 纒... 纒... 纒

纒... 纒... 纒... 纒... 纒... 纒

纒... 纒... 纒... 纒... 纒... 纒

作... 纒... 纒... 纒... 纒... 纒



以物与友

思神法...  
七字細注トスニ

忠成公... 忠成公... 忠成公...  
年... 忠成公... 忠成公...  
清勤... 忠成公... 忠成公...

通津清平伝

一夜... 清海電

一 敬... 清海電... 清海電...  
清海電... 清海電... 清海電...

清海電

他... 清海電... 清海電...

式... 清海電...

同日廿七日  
一 今日... 清海電...

一 振... 清海電...

一 龍... 清海電...

一 日... 清海電...

一 幼... 清海電...

清海電... 三日 廿二日

他... 清海電...



沖慈宮祿漢町口屋交清波後住居建平六月

女二日訪く口山屋棟の事信出来有清波

文化六年戊辰十一月十五日

一樂宮祿清入樂清用盛く為奉 佐野正己年

二月二日清波清く入の動り有後

公方祿清波後文後 大納公祿同文後

清臺祿紅白綿細の端清波願

同六年己巳三月二日

一山伏井戸清波後少後焼

同九年壬申四月二日

一明日日清波清く入有く入有麻子不心免用清波

博く入有何是少後く入の違は

同月四日

一大納公祿清例清用人為奉 作也

他評定所清波清く入有く入有相同は

回浪之殿次柳半々 清波在在也

一四品之清波清く入有 在在 清波清

若殿祿清波清く入有難く入有柳の端酒井河内殿次

席々々 作也

同月十五日

一忠成公清波清く入有 作也

公方祿 大納公祿清波清く入有馬代根持也

清波



後

文化十四年六月廿二日  
一 高田口抱屋敷後小笠原三九郎孫口抱屋敷式子孫

一 伊後文今日の清

前

文化九年  
同年三月十六日  
一 忠成公之叙四品准

但同月二十日清

公方様 紗綾二巻清吉力馬代黄利

大綱云様 清吉力馬代黄利

清基様

清庵中様

白根抄

同十二年丙子八月廿二日

一 於清庵間 清庵中様清庵之墓同為象

作同九月廿二日右清教之十月廿二日

姫君様清教生引刻の進言

文化十四年丁丑八月廿二日  
一 忠成公明女之日麻清之下高清也

城之如高清因高酒井若狭の邊り也

同月廿二日  
一 今日高 高清也 城之在清光中様

高勳也

清光也

清光也

右清光也



同月廿四日  
一 五正公事の番沙公済の経

同九月廿二日  
一 沙没後功多著客あり

同九月廿一日  
一 若殿様沙没御本為御持より御持沙用御本若殿様

殿様より進上りて右有 若殿様月次沙没御持

御持より御本御持 西九上沙没御持

沙没の勤多著

同九月廿一日  
一 於 沙没御持より御本御持 御持より御本御持

同九月廿一日

一 振 御持沙用御持より御本御持 御持より御本御持

十友沙没御持

同十二月廿六日  
一 沙年男由より御持沙勤多著御持 御持

文化十一年戊寅二月十九日  
一 沙勝 御持より御持 御持

同年四月朔日  
一 沙新送御持沙不使沙御持重 御持二日卯刻沙逝去

御持

沙没御持 光持院殿

同六月廿四日  
一 年号改元文政より 御持より御持より四月

廿二日

文政元七月廿六日  
一 紅系山



台德院柳清君居湯院渡田用鐵之為象

作十一月廿日湯之願物

一 湯之願物 列之為象 作之非是也 之為象

同八月廿日 湯之願物 作之非是也 之為象

一 元始王侯松平肥後公湯門秘湯用掛之為象

同十月十二日 湯之願物 作之非是也 之為象

信玄井大炊頭掛湯之為象 同八月廿日 湯之願物 作之非是也 之為象

作之非是也 之為象

同三年庚辰年六月廿四日 湯之願物 作之非是也 之為象

作八月廿日右湯法云云湯相傳烟之世白湯投七

湯之願物

一 同三年庚辰年六月 湯松平領中戸塚村之月以交古子九下之松平傳也

同四年辛巳年十一月廿日 湯之願物 湯之願物 湯之願物

一 湯之願物 湯之願物 湯之願物

湯之願物 湯之願物 湯之願物

公方柳之 内府柳之 湯之願物 湯之願物

湯之願物 湯之願物 湯之願物

湯之願物 湯之願物 湯之願物

湯之願物 湯之願物 湯之願物



同六年壬午六月廿七日  
一 徳く仇柳の事 松平右近將監所 清輝の事

作し 右清輝の事

作し 二月廿八日八丈信十五の事

同六年三月十八日 赤松海峽の事 同廿日  
一 清中野の事 清輝の事 有断不見の事

作し 同月廿二日 白岡の事 松平右近將監所

作し 地子八百七十の事 清輝の事

作し 後有不相手限の事 清輝の事

作し 清輝の事

同六年三月十九日  
一 本所申した細川長門守の事 同廿二日

同六年三月廿一日 清輝の事

同六年三月廿二日 清輝の事

作し

同六年三月廿三日  
一 清年男の事

作し

同六年三月廿七日  
一 日光山 清輝の事

同六年三月廿八日 清輝の事

同六年三月廿九日  
一 日光山 清輝の事

同六年三月三十日 清輝の事

一 日光 清輝の事



とをいふ事

同七甲申年八月十日

洪

奉獻

銅燈籠

西基

野州日光山

東照宮 御神前

文政七年甲申四月十七日

駿河国沼津城主

從四位下侍從兼出羽守源朝臣水野忠成

同七甲申年八月十日

一 近江日光山本清道助の御子と成清誠の御子と

兼清馬の清道助

同月七日

一日 日光山と清道助

信出

清道助自清道助

清道助同九日七半時より信出寺にて清道助と岩淵

通了岩淵清道助同十日古河同十一日小山同十二日右橋

同十二日津和野同十三日同十四日同十五日同十六日同十七日同十八日同十九日同二十日同二十一日同二十二日同二十三日同二十四日同二十五日同二十六日同二十七日同二十八日同二十九日同三十日

同年十月

一 近江小梅村水戸清道助の御子と成清誠の御子と

清道助同九日七半時より信出寺にて清道助と岩淵

同八百年二月九日申午に清道助同九日

清道助同九日七半時より信出寺にて清道助と岩淵

文政八百年二月十日

一 改之即清道助の御子と成清誠の御子と

清道助同九日



若君極多杯 淨穢 家祥公

文政八乙酉年三月朔日

一 中興廿中きこひ産 淨女子極淨

坤姫様同四月朔日淨遊去淨法寺 幻容院敷

同六月十五日

一 松平周防所司代内友紀伊侯御儀

御儀

殿様右淨法清用多象 位

同六月

一 淨法清用多象 位 淨法清用多象 位

淨法清用多象

位

但末成平日光 淨法清用多象 位 淨法清用多象 位

同六月二日

一 淨法清用多象 位 淨法清用多象 位

三日以迄多々願く通 位

一 淨法清用多象 位 淨法清用多象 位

淨法清用多象 位 淨法清用多象 位

淨法清用多象 位 淨法清用多象 位

淨法清用多象 位 淨法清用多象 位

淨法清用多象 位 淨法清用多象 位

淨法清用多象 位 淨法清用多象 位

一 淨法清用多象 位 淨法清用多象 位

七月 五殿様淨法清用







汗生結之良

四火汗也

城之良

於汗後代之良

汗使湯勃之良  
上使湯勃之良

石通湯波湯用之控事

石湯用之良三尺草熱令雨乾後為枯相池汗結

之右為良今通湯馬汗之持相湯波波

每湯馬涼少後入席之良 作月之後從生也

相成

石湯牽之良中馬腰抽月之牽入事以國有湯

今源

七月廿八日  
一今日始石汗鞍度湯能湯用控事

同年七月廿五日  
一傳通院之湯牽湯之良中而湯牽馬湯控事

のり事

同八月十日  
一忠成公所信湯達今日湯登 城控事

日光 汗新湯有湯同成 忠成公所信湯登

湯下

汗新湯相湯之良湯波湯在城之良

湯下

湯下



同八月五日  
一 東路之清服之象

作清海城每時作十

清海城

同有極八丈之及清洋頌從

清着極江自編細

七及清洋頌別從

公方極之於清休息清之清洋頌

同有極之草蒲皮之枚

若若極之懷中時平

清洋頌

同十八日清祭駕中道清宅板橋輝三戶田川  
清之水自清止若明之日清清川信州村在清殿系

口十百千

一 同清之真儀我列

等之力村至同之地

所如之節下拘り

亦之十儀合之亦

敷之九也始末不局

之也此集之儀也

世夜和事儀之儀

之儀儀也儀儀儀

青中節之夜中節

大之儀之儀之儀

古之儀之儀之儀

九月六日系於清着同十九日清系

同同廿六日清服清系

同同廿六日系於清祭駕

十月廿五日沼津清着

城同十月廿五日所之儀

廿六日清着者其之清着者

清着者其之清着者

清之儀之清之儀

清之儀

同有極之清洋頌之草蒲皮清鞍高之清着者

清之儀之清之儀之清之儀之清之儀

同有極之本的皮投朝之清着者馬之清着者

文政九年丙戌三月八日







多経疾

同八月廿二日

一忠成公此日信守達今日麻沙之下

城を征らる

若君極未斗汗元服沙用と相象

作以伝

沙河列物方西方万因治之善改相の忠勤

但右有今日沙殿信麻之下を席と人の用事

也

忠成公之右有沙殿口忠勤と相象

十二月廿二日

一紀多相解忠成子沙用と成の勤り月日相領物あり

文政十一年二月廿六日

一和相君極沙河後汗用の勤り相象

作以

四月廿六日

一大細相極汗元服汗官信沙用と成の勤り相領

物り伝

同七月廿七日

一矢之余沙洋領の信守補八百石あり相象余は松葉社也

漢河沙河殿の下屋敷に四千石あり相象水口領地

四百石あり相象と相象相象の領地在右沙相対也

作以

作以りく濱町の申付と相象は是近也

沙河殿の如地信守の勤り月日相領



多佛用之... 汚穢... 汚穢... 汚穢...

汚穢...

同月廿九日  
一 右汚穢海

八月廿日  
一 能中... 汚穢...

八月廿日  
一 以... 汚穢... 作以漢河...

其地... 汚穢... 汚穢...

汚穢... 汚穢... 汚穢...

汚穢... 汚穢... 汚穢...

汚穢... 汚穢... 汚穢...

中... 汚穢... 汚穢...

汚穢... 汚穢... 汚穢...

汚穢... 汚穢... 汚穢...

汚穢... 汚穢...

同月九日  
一 汚穢... 汚穢...

汚穢... 汚穢... 汚穢...

九月十二日  
一 汚穢... 汚穢...

汚穢... 汚穢...

文政十二年二月廿日  
一 大... 汚穢... 汚穢...











知事が誠後國より子ゆね石版清洋願分村に帳を渡

三月五日の地多清洋願分村

十二月廿六日  
一 台徳院柳清買屋より清洋願分村に地を譲り給ふ

清時振十清願

一 沼津清洋城外より侍田を清願に譲り給ふ今日清城外

上上町に授け下地内或方坪余清洋願分村に寄

清清多相願

天保二年九月廿八日  
一 有君柳清下向清用の地を譲り給ふ

清在間より家 上意清時振十清願分村

沼津城外侍  
屋敷内清洋地  
地内而代祀豆別

五月朔日

加勢郡石川村内

去月廿日江川

大郡寺内清洋地

物引内清洋地

天保三年二月八日  
一 上野飯清位牌下清洋願分村に地を譲り給ふ

清勤より月於 清在間純子より清洋願

但前日麻下より清洋願 城清洋願

二月  
一 公儀清洋願分村に地を譲り給ふ

清洋願分村に地を譲り給ふ

増清領裁裁りより清洋願分村に地を譲り給ふ







其の帛少袖麻之不着之其袖織造其以金之其袖  
或挿入其袖細戸口入例ふのその袖之の縫造各  
以金之其の縫造其の縫造又相造其

二月十五日  
一今年中刻申矣其後多山産

一 渚女子様清浄生同百清七夜清浄及奉祈  
我娘様之清虚弱之四月十日山遊云清浄

智明院様

二月十九日  
一昨日依違道人之麻清浄不之清浄

城之北之於 清庭回清浄之其家

上意清浄上納金之其月

清浄自清浄一腰清浄清浄之其技

清刀身

平安城長吉  
折角三枝

清柄系黄緋

清敷白

清朝蠟色  
清下之緒茶

清之所物

金 菱清飯之  
清小柄清浄并上地赤桐七子切金三枝

清鉾

赤桐

鉏 同清飯付

清録

赤桐七子二筋引 鴨目金無垢

清頭角

二月十九日  
一右同日清浄清浄清浄物

作月七前之清浄















殿様清氣長き清快方（此中）

開き清快方（此中）清快方（此中）清快方（此中）

下中成り清快方（此中）清快方（此中）清快方（此中）

清快方（此中）清快方（此中）清快方（此中）

清快方（此中）清快方（此中）

一同清快方（此中）清快方（此中）清快方（此中）

一同清快方（此中）清快方（此中）清快方（此中）

一同清快方（此中）清快方（此中）清快方（此中）

一同清快方（此中）清快方（此中）清快方（此中）

一同清快方（此中）清快方（此中）清快方（此中）

一同清快方（此中）清快方（此中）清快方（此中）

一同清快方（此中）清快方（此中）清快方（此中）

一同清快方（此中）清快方（此中）清快方（此中）

清快方（此中）

覚

上桐守

二布緋之布白幕（此中）版幕（此中）相唱（此中）

来り事



同六月十日  
一 油川長門所中へ清平公を式子三下を控九

坪解の難後へ清平公を式子三下を控九

一 同少清平公を式子三下を控九

同六月十日  
一 右清平公を式子三下を控九

同六月十日  
一 清平公を式子三下を控九

同七月九日  
一 申へ清平公を式子三下を控九

同六月十日  
一 清平公を式子三下を控九

同六月十日  
一 清平公を式子三下を控九

城下控九

天保己丑九月廿六日

一 清平公を式子三下を控九

同十月七日  
一 清平公を式子三下を控九

同十月八日  
一 清平公を式子三下を控九

同九月九日  
一 申へ清平公を式子三下を控九

同六月十日

一 清平公を式子三下を控九

同六月十日  
一 清平公を式子三下を控九

同六月十日  
一 清平公を式子三下を控九

同六月十日  
一 清平公を式子三下を控九



一 清急服の徳りたる清急出

若殿様は清急母の清急の清急たる清急出

奥様は清急母の清急服たる清急

一 清急 同廿一日 清急母 城は清急

一 清急 天保六年二月九日 清急母 城は清急

一 清急 同十日 清急母 城は清急

一 清急 同十二日 清急母 城は清急

一 清急 同十七日 清急母 城は清急

一 清急 同十七日 清急母 城は清急

作しりる清急配清急母は清急母

清急母は清急母は清急母

一 清急 同廿一日 清急母 城は清急

清急母は清急母は清急母

一 清急 同廿一日 清急母 城は清急

清急母は清急母は清急母

一 清急 同廿一日 清急母 城は清急

清急母は清急母は清急母

清急母は清急母は清急母



同廿六日  
一 清通寺清光堂より往りし清用番紙の印の事

同日  
一 清通寺清通寺の事

同廿七日  
一 清親頼朝の醫師の事

同日  
一 公方標 内府標の事 上使味喃清小鯛一捲元

清洋領の事

若殿標清光使の事

清光の事

上使の事

勅

同二月廿七日  
一 清通寺列候方若殿の事

代官清通寺の事

同廿八日  
一 忠成公清通寺の事

清通寺の事

魏徳院殿従四位侍従前羽列大守光譽成宗融鑑大居士

同日  
一 奥標清通寺 宏鑑院標の事

同廿九日  
一 上使の事

公方標 浪之形 尾張標の事

内府標 同二形 紀伊標の事



汗卷標。同。右。投

汗卷中標。同。右。投

同日七月七日

一 魏德院標。汗。造。骸。今。角。上。刻。汗。館。小。石。川

傳通院。汗。安。送。汗。傳。之。以。年。日。之。多。之。以。人。教。相

増。傳。之。院。表。之。因。昌。林。院。汗。若。枝。丈。之。汗。之。舞。或

汗。行。列。相。如。本。堂。汗。入。館。傳。通。院。之。丈。汗。之。立

天保七年三月九日

一 今日。十一。日。之。二。夜。之。日。汗。法。事。傳。通。院。之。汗。執

以。丈。之。汗。七。之。之。汗。之。汗。之。汗。法。事。之。相。如

之。之。汗。法。事。之。之。汗。之。汗。之。汗。法。事。之。相。如

天保七年二月

一 野山。汗。宝。塔。汗。建。之。汗。位。降。汗。靈。具。也。汗。法。何

出。云。令

英。定。規。科。百。世。之。汗。法。事

他。之。野。山。之。汗。之。二。月。之。汗。之。汗。之。汗。法。事。在。七。日。八。日

之。汗。法。事。之。汗。之。汗。之。汗。法。事。之。汗。法。事。之。汗。法。事

汗。之。汗。法。事。之。汗。之。汗。之。汗。法。事。之。汗。法。事。之。汗。法。事

寺。田。源。之。汗。法。事



同六月寅年  
十一月十五日  
一内田文三

實政四壬子年九月廿六日

一於濱町濟誕生汗知名惣兵衛様

文化四年三月十四日

一松平和泉と似し女壽様様清縁也少領之通

仲也

文化五年辰年三月廿五日清國海三月十八日

一汗油田

同十月二日

一清用番松平恒定と似し女友若馬と似し古井大炊正所と似し通

之相入

同月十五日

一物多誠中と似し同月三日清也

城勢

汗目見

同月十五日

一汗茶髪と似し

同月十五日

一月次初と似し

他十月十五日清也

城

文化六年巳年二月二日

一衣良勺と似し汗茶



一 涉叙爵之由象

作涉官名之和係之涉叙

一 壽娘採涉之由象

作涉官名之和係之涉叙

一 忠義公涉領席雅之由象

作涉官名之和係之涉叙

一 忠成公涉藝目之由象

作涉官名之和係之涉叙

忠義公涉矢取之由象

作涉官名之和係之涉叙

一 涉藝目涉藝之由象

一 涉新造採涉着帶涉叙後

一月次涉涉

作涉官名之和係之涉叙

忠成公涉選之由象

作涉官名之和係之涉叙

一 涉新造採涉為氣涉養生之由象

作涉官名之和係之涉叙

一 忠義公濱所涉叙後

一 脂非採涉叙後

一 涉休女涉

作涉官名之和係之涉叙

一 撫心兵涉係

忠義公涉婦子之由象

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日

同十三年丙子八月廿三日







以百中供中小性... 曆本目中... 本

文政十一戊子年三月

一傳通院標清靈... 本手願清... 銘... 良

若殿標... 殿標清... 上根... 及清... 標... 旨

作出清... 日... 物... 願... 持... 系

殿標... 是... 近... 年... 始... 自... 根... 及... 清... 備... 物... 以... 勤

文化十二年八月廿二日

一傳... 院... 標... 清... 祥... 月... 以... 本

若殿標... 義... 清... 葉... 子... 清... 院... 清... 就... 使... 存... 以... 以

作出清... 以... 女

殿標... 入... 杖... 三... 重... 折... 七... 種... 法... 清... 殿... 葉... 子... 以... 旨

若殿標... 入... 杖... 三... 重... 折... 三... 清... 葉... 子... 以... 杖

清... 記... 々

殿標... 清... 國... 殿... 以... 杖... 清... 葉... 子... 以... 勤

文政十一年十一月十四日

一忠... 義... 公... 清... 葉... 子... 於... 漢... 所... 清... 葉... 子... 以... 勤

清... 名... 別... 之... 由... 所

門十二己丑年三月十日

一別... 之... 由... 所... 之... 由... 所... 曜... 樹... 院... 殿

門十三寅年四月廿八日

一若... 殿... 標... 清... 箱... 之... 向... 後... 中... 之... 用... 之... 為... 持... 以... 勤

殿... 標... 清... 院... 之... 通... 之... 由... 所... 院... 殿

門年九月廿八日

一忠... 義... 公... 清... 葉... 子... 於... 漢... 所... 清... 葉... 子... 以... 勤







四月九日

一 清先代権清のくを清及清清轉之皮虎皮同清自改

同部清馬之正平日の事加所の清之遠去の多清

抄

四月十二日

一 清用着誠希の宛の宛

清家督の相違りの家 作

天保五年四月十二日

一 清名改清願源 山崎清之丞

同日 清之口清之口清用有家化を清之口清田界田清願

の口清之口清之口清願の清の口清の口清の口清

四月十三日

一 清之口清之口清願の清願の清願の清願の清願

作

四月十四日

一 殿権今日清願の口清願の清願の清願の清願

四月十五日

一 清之口清之口清願の清願の清願の清願の清願

四月十六日

一 清家中の清の家督跡式 作

根 清之口清之口清願の清願の清願の清願の清願

子孫の口清之口清願の清願の清願の清願の清願

思召の口清之口清願の清願の清願の清願の清願

清之口清之口清願の清願の清願の清願の清願

作



是迄之趣一代之言下減退也 此付事

一 今迄之者在右田所 亦心得了事

四月廿八日 一 濟家督之沙後之 修之司集来之人

濟目見之 此付事

云方總教助及 水野助及及 云方丹中及

濟太刀 一腰	内府標	濟臺標
茨金 三枚兩	濟太刀 一腰	濟臺中標
鉄徒 二卷	濟馬 代茨金 一足	根 六枚
濟馬 裸脊 一足		

十月廿九日 一 濟家督之沙後之 一統之酒之由也者二枚

之付事

六月二日 一 外橋田之田後之旗之里及今日沙後也

六月廿一日 一 殿標今日沙之里及之付事 此付事

之付事

六月廿日 一 沙次男 啓之官旗之本沙後之少願去之先公同六日

少願海心来

若殿標之奉称事

同七日 一 惣旗之付事 惣旗之付事及沙後之沙次之由也

沙田若殿之由也

六月廿二日 一 沙田之新之由沙後也

此出



公方様へ 紗綾疋

内方様へ

同元元 洋洋 洋洋

七月廿日 一 洋在所 洋糸 鷹同 留

洋糸 織り 控

天保五年八月廿日

一 洋糸 股

洋糸 織り 控  
洋糸 織り 控  
洋糸 織り 控  
洋糸 織り 控

一 洋男子 柳 洋 従生 洋名

黄之助 氏 氏 氏 氏

八月廿日

一 傳通 院 頌 涼 松 寺 殿 入 合 下 戶 塚 村 牛 也 子 福 田

村 内 也 坂 田 六 子 九 下 下 坊 立 塚 村 伊 掃 氏 氏

少 儀 洋

天保五年八月廿日 天保五年八月廿日 天保五年八月廿日

一 杉 家 三 洋 頌 之 節 皮 投 鞘 長 柄 槍 是 近 初 之 儀

多 下 在 所 上 方 之 長 旅 中 力 為 束 縛 水 邊 頌

洋 品 之 後 之 氏 以 自 以 來 之 儀 之 儀 之 儀 之 儀 之 儀

皮 投 鞘 長 柄 槍 或 中 之 道 月 之 儀 之 儀 之 儀

洋 糸 代 之 儀 之 儀 之 儀 之 儀 之 儀 之 儀 之 儀

力 將 之 儀 之 儀 之 儀 之 儀 之 儀 之 儀

同六月廿日 一 洋在所 洋糸 鷹同 留

同七月廿日 一 洋在所 洋糸 鷹同 留

洋糸 織り 控  
洋糸 織り 控  
洋馬 十兩 一疋

内方様へ  
洋糸 織り 控  
洋馬 十兩 一疋

洋馬 十兩 一疋  
白根 三枚



六月十日

一月梅田清の著石川日守代へ向ふ 作止

八月十日

一月用呂清の 城守代へ向ふ 沖白書院縁類

和泉代へ向ふ 清清の申付書列座

水野出羽守

亡父出羽守平兼結核と 引はあふとの所傳り不

とて重き洋領也と 後月抄の事

沖清の恩以て是事也との事清の代り多しと日方具か上納

色に白く月領の海邊と 沖清の代り事也

出羽守平兼清の申上納金と 作止書百七十四

雅友 沖清の清い清いとの事代り代り

思ひ合ひ依り月領の通ひ金と百五上納と

作止の通ひの事清への用金ととの事也

八月十日

一月清の納金運使の金藏との事方より納金

九月十日

一月清の代り清の 城守代へ向ふ 沖白書院縁類

清の領事也

但清の納金より清の代り清の代り清の代り清の代り

清の領事也

天保六年三月二日

一月使の清の代り清の代り清の代り清の代り







天保八年三月十六日

沖白書院極頼

水野公何吉

思石有く以月也

作自之

右中務之補了済之宛中列在

列候済達

水野吉何吉

一 三方城降進て 沙汰法を 御及り 済在父

出向り 女持り 以 右仕候は 気勤功

思石出務一 次若今 般中也

平之 付り 以 済へ 向り 相成 事

一 沙汰御 雁二沙 洋領之 把力に 列済也

城之 把力

一 今日済用に 済也 城在 中之 済中也

済用に 済也 上之 代地本 所十 町川 枡平

伊豫之 代地中 所十 町川 枡平

中之 代地中 所十 町川 枡平

上之 代地中 所十 町川 枡平

三月十日  
一 西九表沙汰所  
出火表沙汰補向  
済所大興苦不  
沙汰焼失四時迄  
火氣山生済列余  
之一 口之 難播  
大沙汰

天保九年戊戌年二月十九日

天保八年三月十九日



多し内三式子三百拾九坪余より又女子四百拾九坪

一 今一箇月廿六日 中ノ川清田古ノ百拾九坪  
之月廿六日

一 今一箇月廿六日 城ノ北ノ西九沙重信清田

新ノ通合立ノ高津ノ細重ノ田 作有沙重信清田

清田邊ノ下ノ名加ノ下ノ田

作有四月廿六日清田ノ納五原

一 同一年四月 高田清田ノ邊ノ下ノ塚村ノ子五百拾六坪ノ田ノ子四百

少拾六坪 井ノ子掃取ノ田ノ下ノ儀後ノ田同月廿六日

清田邊ノ下ノ百拾六坪

同一年六月十二日

一 沼津ノ下ノ清田ノ 作有沙重領物ノ田同廿六日

清田邊ノ下ノ百拾六坪

一 嘉久保林沼津ノ今一箇月廿六日清田ノ邊ノ下ノ田ノ子四百

天保十一年ノ下ノ田ノ子四百

一 清田ノ下ノ田ノ子四百 天保十一年ノ下ノ田ノ子四百

一 上使沙重ノ下ノ田ノ子四百 同月廿六日

一 同一年西九月廿六日 上ノ金ノ下ノ田ノ子四百 同月廿六日

沼津ノ下ノ田ノ子四百 城ノ北ノ西九沙重信清田

一 石田ノ下ノ田ノ子四百 同一年西九月廿六日 沼津ノ下ノ田ノ子四百







作於三月廿九日 泮法号 又恭院標之

泮法号

二月廿二日 廣大院標之

泮法号 聖宣年二月 一位標之

三月廿一日 泮法号 泮法号

四月 泮法号

五月廿一日 泮法号

六月廿一日 泮法号

七月廿一日 泮法号

八月廿一日 泮法号

九月廿一日 泮法号

十月廿一日 泮法号

十一月廿一日 泮法号

十二月廿一日 泮法号

泮法号

泮法号

泮法号

泮法号



上覧

作の月沙の向の沙の者之の以て

右の

以て沙の向の沙の者之の以て

所の向の馬場の向の

右殿様沙不使中三月十日所沙入

八月七日 殿様沙不使席中三月十日所沙入

九月八日 若殿様沙不使席中三月十日所沙入

若殿様沙不使席中三月十日所沙入  
若殿様沙不使席中三月十日所沙入  
若殿様沙不使席中三月十日所沙入

沙の向の馬場の向の

十月十日 殿様沙不使席中三月十日所沙入

十一月十日 殿様沙不使席中三月十日所沙入

沙の向の馬場の向の  
沙の向の馬場の向の  
沙の向の馬場の向の

天保二年十月十日 殿様沙不使席中三月十日所沙入

沙の向の馬場の向の

沙の向の馬場の向の

一月十日 殿様沙不使席中三月十日所沙入

沙の向の馬場の向の



作此の事申し候へども、  
御座り候へども

二月十三日  
一 殿様清浄願文中別段の沙汰は、  
在り候へども、  
御座り候へども

如く先沙汰の如く、  
御座り候へども、  
御座り候へども

相中

二月十六日  
一 沙汰の事申し候へども、  
御座り候へども、  
御座り候へども

日沙汰の事申し候へども、  
御座り候へども、  
御座り候へども

二月十九日  
一 沙汰の事申し候へども、  
御座り候へども、  
御座り候へども

右

若殿様清浄願文中、  
御座り候へども、  
御座り候へども

殿様清浄願文中

共徳院様と申し候へども、  
御座り候へども、  
御座り候へども

沙汰の事

二月廿三日迄の初七日迄、  
御座り候へども、  
御座り候へども

申し候へども、  
御座り候へども、  
御座り候へども

二月廿四日  
一 若殿様今日

殿様と申し候へども、  
御座り候へども、  
御座り候へども



忠武公

文政七年七月十二日濟誕生

天保八丁酉年三月

一 若殿柳清武體在通為 清の四月為達之

清在府中

一 年始、約、武、向、於、清、居、間、書、院、清、家、元

清、年、家、清、南、人、清、乳

清、同、在、之、為、清、清、也、城、之、在、清、跡、也

清、清、家、中、一、同、清、乳、也、清、

一 清、清、初、清、具、是、故、去、格、清、同、在、清、乳

一 出、來、在、清、家、也、也、同、有、清、也、清、乳



清國在るを記す

一 長久清道難子と清道を清居るに  
記す

清國在るを記す

清在城中

一 年始八節の長久清道を記す

清

但清自多と清記す

清

殿様と清記す

一 清籍ゆき清具足格と記す

南十二月

同平

一 清表 清居間出来清表 清居るに記す

天保十一年己丑年七月五日

一 清 實名 忠武公格と記す

同平十月十日

一 清 六月 清居るに記す

同平十月十日

一 若殿様 清居るに記す

八人 清居るに記す

同平十一月朔日

廿二日 清居るに記す



初年甲辰年... 伊賀守... 壬午年... 辰... 辰...

初年乙未年... 伊賀守... 壬午年... 辰... 辰... 辰...

初年丙申年... 伊賀守... 壬午年... 辰... 辰... 辰...

初年丁酉年... 伊賀守... 壬午年... 辰... 辰... 辰...

初年戊戌年... 伊賀守... 壬午年... 辰... 辰... 辰...

初年己亥年... 伊賀守... 壬午年... 辰... 辰... 辰...

初年庚子年... 伊賀守... 壬午年... 辰... 辰... 辰...

初年辛丑年... 伊賀守... 壬午年... 辰... 辰... 辰...

初年壬寅年... 伊賀守... 壬午年... 辰... 辰... 辰...

初年癸卯年... 伊賀守... 壬午年... 辰... 辰... 辰...

初年甲辰年... 伊賀守... 壬午年... 辰... 辰... 辰...

初年乙未年... 伊賀守... 壬午年... 辰... 辰... 辰...

初年丙申年... 伊賀守... 壬午年... 辰... 辰... 辰...

初年丁酉年... 伊賀守... 壬午年... 辰... 辰... 辰...

初年戊戌年... 伊賀守... 壬午年... 辰... 辰... 辰...

初年己亥年... 伊賀守... 壬午年... 辰... 辰... 辰...

初年庚子年... 伊賀守... 壬午年... 辰... 辰... 辰...

初年辛丑年... 伊賀守... 壬午年... 辰... 辰... 辰...



清公の命を奉り日夜美申別以清大切なる

在り十九日 沙率去りて 清公様共立りて 日之傳通院

清公様御座り

天保十三壬寅年三月

一 殿様清公御座り

清公の御座り

清公の御座り

一 清公御座り

一 清公御座り

一 清公御座り

八人の御座り

八人の御座り

一 清公御座り

一 清公御座り

一 清公御座り

一 清公御座り

清公御座り

一 清公御座り

清公御座り

清公御座り

清公御座り

清公御座り

清公御座り

清公御座り

二月二日 一 清公御座り



一 殿様今日所用之水野御前御用書  
口三月廿四日

一 御家譜書相違ふ御家  
口三月廿五日

一 石有縫殿御用書  
口三月廿六日

洋領

一 御先代御用書  
口三月廿七日

一 御書信御家申書御家及附相書と被向書

一 石准一御用書

一 石准一御用書

一 春山及事清樹屋を相稱り  
口三月廿八日

一 春山及事清樹屋を相稱り  
口三月廿九日

一 御家譜書相違ふ御家  
口三月三十日

一 殿様御用書  
口三月三十一日

御用書

一 殿七月十二日

一 長江院様之御用書  
口七月十三日

一 徳川乾坤院御用書  
口七月十四日

一 御家譜書相違ふ御家  
口七月十五日

一 御用書



一石月津敵之物

公方様

沖太刀 一腰  
黄金 三枚  
沖馬 一疋  
深脊 一疋  
尾白赤毛

右大将様

沖太刀 一腰  
沖馬代黄金 三枚  
大津堂様  
沖屋中様  
白根 三枚

日平家  
右方總領助  
六十川丸白馬

三月廿六日  
一沖家督沙月殺り在りし沙家第一回上法合後復  
力り之沙月殺り有以家元以年安以用人獨殺之計之

業の科懼ら酒沙月殺り二枚より一月月竹席  
以月竹席より取取毎壹條より酒内物者或後より  
法士より内物者或後より四月より四月より中世  
沖月竹席より石月竹席より下中世毎高田の庭方左衛  
平親より内物者一様より一月竹席より内物者或後より  
以酒内物者或後より小中世より内物者一様より小中  
世より相より内物者一様より一月竹席より内物者或後より  
以酒内物者或後より小中世より内物者一様より小中  
世より相より内物者一様より一月竹席より内物者或後より

中四巻

大藤洋  
刻海光

鮮  
新  
中  
世

内物

右方



者一移之下

大蒲祥 割海元

四月有波以并下亦版皇登 煮深盍

推子機 行孰 多也

一 涉法合涉原目

位也

脩德院極

昔德院極是涉之代也

十一丙午年

敬若院極涉代

位也涉法合書涉記極也

力涉河優之唐之

位也尤制極也

一 涉

四月十日 涉家籍有涉入河人

六月七日 一 高涉其是投涉延

中 涉

六月十日 一 云方極上極

作 涉

六月十日 一 長江院極涉遠

涉居留書院

涉長對中

三方

涉同是

涉由極

紅水涉一居

涉神酒

名之極

或

他之合

涉

在







十一月九日  
一 抗州人等

城邑を根拠し、自衛の力に任ず

十一月十日

一 潮家中へ宛て、沙津同治後制約、  
俾月相元足

沙津元足、沙津中宮、沙津中席、沙津中此、以て今も相海

口、沙津中此、下り、

十一月十日

一 沙津中此、雁、沙津中此、雁、沙津中此、雁、  
沙津中此、雁、

十一月十日

十一月十日

一 沙津中此、雁、沙津中此、雁、沙津中此、雁、  
沙津中此、雁、

沙津中此、雁、沙津中此、雁、沙津中此、雁、  
沙津中此、雁、

十一月十日

一 沙津中此、雁、沙津中此、雁、沙津中此、雁、  
沙津中此、雁、

十一月十日

沙津中此、雁、沙津中此、雁、沙津中此、雁、  
沙津中此、雁、

十一月十日

沙津中此、雁、沙津中此、雁、沙津中此、雁、  
沙津中此、雁、

沙津中此、雁、沙津中此、雁、沙津中此、雁、  
沙津中此、雁、

沙津中此、雁、沙津中此、雁、沙津中此、雁、  
沙津中此、雁、

十一月十日

一 松平右衛門、沙津中此、雁、沙津中此、雁、  
沙津中此、雁、

天保十四年二月二日



二月五日

一 首六付江外  
櫻田少左衛門  
西馬銅葉  
部尾公出大  
早迷誌大

抄也

一 初宵の夜は月三つ星二面月り歌の因又三友同り歌

身は心と解るといふ多分一とある奥の用は心とある

一 程水様沙疾物 益々水様沙結物

ふか久娘様の奴解の結は

一 安否水様 沙入奥 沖城洞沙結と程乞利

甲斐と程の入り

右の字の差程  
之の差程内程  
内代と内代  
三五五内代  
三五五内代  
之の差程内程  
有し是是是  
之の差程内程  
有し是是是  
之の差程内程  
有し是是是  
之の差程内程  
有し是是是

二月九日

一 沖結物と進

一 湯家元 楊乳の汁之桑の科煙の酒及び青二粒

以下

一 奥中の性以上の酒及び青沙種と下小血解と下 結のぬり 口も白くは

以下湯目身と程とりの下

一 安否水様と事及び 英代水様と事

一 奥水様入奥と表向の酒合た道

殿様 奥様 宏徳院様

湯内様

殿様 宏徳院様 奥様







○同日  
一 石津寺清浄園の事

作月内松田清の事

一 清浄寺の事  
○同日  
一 清浄寺の事

一 清浄寺の事

○同日  
一 清浄寺の事

一 清浄寺の事

一 清浄寺の事

一 清浄寺の事

一 清浄寺の事

一 清浄寺の事

○同日  
一 清浄寺の事

○同日

一 清浄寺の事

一 清浄寺の事

一 清浄寺の事

一 清浄寺の事

一 清浄寺の事

一 清浄寺の事

一 清浄寺の事

一 清浄寺の事

一 清浄寺の事

一 清浄寺の事

一 清浄寺の事

一 清浄寺の事

一 市川橋蔵の事







斗を定むる事なりけり外に他人の裁かぬ事

御書 御事

一 大目付の目付所を湯に取試つてお積と云ふ事有沙等  
あり通

上州の傳書より月暮れに外に換取試つてお積と  
云ふ事有沙等あり通  
一 湯の湯より湯に取試つてお積と云ふ事有沙等  
あり通

十二月廿四日  
公方佐右衛門

一 湯の湯より湯に取試つてお積と云ふ事有沙等  
あり通

大吹流の湯より湯に取試つてお積と云ふ事有沙等  
あり通

一 湯の湯より湯に取試つてお積と云ふ事有沙等  
あり通







長徳院様御書に依りて如く御用度御書に

御書に依りて御用度御書に依りて

一 長徳院様御書に依りて御用度御書に依りて

御書に依りて御用度御書に依りて

殿様御書に依りて

一 大徳院様御書に依りて

恒徳院様御書に依りて

一 恒徳院様御書に依りて

恒徳院様御書に依りて

一 恒徳院様御書に依りて御用度御書に依りて

十九日の御書に依りて御用度御書に依りて

一 殿様御書に依りて御用度御書に依りて

一 殿様御書に依りて御用度御書に依りて

御書に依りて御用度御書に依りて

御書に依りて御用度御書に依りて

一 御書に依りて御用度御書に依りて

一 御書に依りて御用度御書に依りて

御書に依りて御用度御書に依りて



九月廿日

堀田左京亮

一 津田昌之 津田代 於津田

津田代

津田代様津田代様津田代様津田代様津田代様

津田代様

九月廿日

一 石田昌之 津田代 於津田

時彼 二

土方維敏助

白根 三 段

時彼 二  
白根 三 段

土方祐左衛門  
上夜市右衛門  
金沢八郎  
原田孫三郎  
梅村重吉

時彼 三  
白根 三 段

十月廿日

一 津田家 津田代 於津田 於津田 於津田 於津田 於津田

津田代様津田代様津田代様津田代様津田代様

忠武公津田家 津田代 於津田 於津田 於津田 於津田 於津田

津田代様

天保十三年三月十日 弘化二年正月十日

一 土方様上卿 津田代 於津田 於津田 於津田 於津田 於津田

一 今使 津田代 於津田 於津田 於津田 於津田 於津田

津田代様津田代様津田代様津田代様津田代様

一 嘉久様様 津田代 於津田 於津田 於津田 於津田 於津田

一 嘉久様様



松壽院標清書

治三月廿二日

二月廿八日

宏德院標清書

今朝俄の雲霧相變清法切の在清法生なる叶

清法去と程の大有

殿標清法書方清法自之也

八月廿六日

宏德院標清法送族分卯別漢町清法書清法

小石川傳通院清法送

夕七何山小石川築地馬場

三月廿日

一草百茂書

揚屋入書

作牛書

中用書

阿多書

阿多書

治化三月廿二日

清奉書火消との家

治号振橋のつ不敷家可

多取の火消との家

二月廿一日

一の上清法と清法書との家

二月廿一日

一先帝出清法自去十二日

東宮清法

先帝清法号

二月廿一日

大行天皇清法号

昨夜











殿様の實姉に侍る湯屋長方は母に侍る

湯屋の婿に侍る

三月十日

一 湯屋長方の湯屋に侍る

湯屋入の湯屋の雑煮に侍る

三月十日

一 湯屋入の湯屋に侍る

弘化丁未年九月

一 湯屋長方の湯屋に侍る

弘化丁未年九月

一 湯屋長方の湯屋に侍る

湯屋長方の湯屋に侍る

湯屋長方の湯屋に侍る

湯屋長方の湯屋に侍る

湯屋長方の湯屋に侍る

湯屋長方の湯屋に侍る

弘化丁未年三月十日







